

学校法人 品川女子学院

平成20年度 事業報告書

平成20年4月 1日から

平成21年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

品川女子学院高等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

品川女子学院中等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

2. 生徒数

(平成20年5月1日現在)

学校名	入学定員	収容定員	現員
品川女子学院高等部	225人	675人	644人
品川女子学院中等部	200人	600人	626人

(注1) 休学者を含む

(注2) 留学生を含む

3. 役員等

(平成20年5月1日現在)

理事長	漆 邦臣
理事 (品川女子学院中等部・高等部校長)	漆 紫穂子
理事	塚田 成四郎
理事	藤巻 あや子
理事	高須 省三
理事	富本 道宣
監事	古谷 久恵
監事	戸川 五郎

理事定数 7人 現員 6人

監事定数 2人 現員 2人

評議員定数 15人 現員 14人

4. 教職員数

(平成20年5月1日現在)

教員数 91人

(内訳)

専任教員 63人

講師 28人

職員数 12人

(内訳)

専任職員 9人

契約職員 3人

II. 事業の概要

1. 教育目標 (ミッション)

私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます。

2. 教育活動

(1) 28プロジェクト

28才になったとき、社会で活躍している女性を育てるため、自ら進路を選択し自ら目標を設定できるようにする進路指導を実践します。また、多くの人と連携して夢を実現できるようにするために、コミュニケーション能力を育成します。そして、国際社会で活躍する基礎スキルとして、TOEICによる英語運用力を育成します。

(2) 総合学習等

中等部では、各学年ごとにテーマ（1年「地域を知る」2年「日本を知る」3年「世界を知る」）を決め、そのテーマに基づいて年間の総合学習等の行事を構成しています。学習を展開するに当たっては、地域との連携、卒業生や保護者、外部の専門家の方の協力を得て行いました。

(3) 特別講座

大学、企業等の専門家に協力していただき、情報、科学、経済など様々なテーマで特別講座を行いました。

(4) 国際交流

中学3年は、ニュージーランドでの修学旅行で豊富な交流プログラムを体験してきま

した。現地校でのコミュニケーション、素晴らしい自然の中でのファームステイ、さまざまな社会見学・体験などを通して、文化交流を行いました。さらに語学習得を続けた
い、異文化を学びたいという希望者はロングステイコースを設け約2週間延長を可能に
しました。

修学旅行以外にも海外研修プログラムを2種類、留学プログラムを6種類用意しまし
た。

海外からの留学生も積極的に受け入れています。平成20年度は14人の留学生を迎
え、在校生と親しく交流しました。

3. 生徒支援

(1) 奨学金制度

入学後の家計急変のため学業の継続が経済的に困難になった生徒対し、授業料を免除
する「授業料特別免除」と、奨学金を贈与する「白ばら奨学金」の2つの制度がありま
す。平成20年度は合わせて7人の生徒が制度を利用しました。

また、将来にわたる制度の維持のため、奨学基金（3号基本金）の積み増し及び募金
を行いました。

(2) 留学生支援

海外からの留学生に対し、学費免除等の経済的支援を行っています。また、クロスカ
ルチャールームから家族にメールで連絡ができるようにパソコンを設置しています。

4. 施設・設備整備

- ・床体操場の床を更新しました。
- ・進学資料閲覧室の内装工事及びキャビネットの入れ替えを行いました。
- ・緊急地震速報設備を設置しました。
- ・プレゼン等に利用するため、液晶プロジェクタを3台導入しました。
- ・将来の校舎改築に備え、2号基本金の組入を行いました。

III. 財務の概要

平成20年度の収入は当初予算を上回りました。

増収の要因は、寄付金、補助金、私学財団交付金収入が増加したことによるもので
す。帰属収入全体で、予算を約4千万円上回りました。

一方、支出については、人件費、教育研究経費、管理経費共に予算を下回ったため、
消費支出合計では予算を約2千万円下回りました。

施設関係支出等を主な内容とする基本金組入額は予算を約1千万円下回りました。

これらの結果、収支状況は帰属収入の増加が大きく影響して、予算段階での約2億1千万円の消費支出超過から約1億3千万円の消費支出超過へと改善することになりました。